

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®](試行)認証申請書

2022 年 10 月 28 日

ジャパングループエコノミー技術研究組合 御中

(申請者) 洋野町

住所 岩手県九戸郡洋野町種市第 23 地割 27 番地

代表者 洋野町長 岡 本 正 善

法人番号 8000020035076



Jブルークレジット制度実施要領の規定に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	■新規申請 □登録番号 ()
プロジェクトの名称	岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動
プロジェクト実施者・場所	【実施者】 洋野町（洋野町長 岡本正善） 岩手県九戸郡洋野町種市第 23 地割 27 番地 種市漁業協同組合（代表理事組合長 大村文雄） 岩手県九戸郡洋野町種市第 22 地割 131 番地 1 洋野町漁業協同組合（代表理事組合長 吹切信夫） 岩手県九戸郡洋野町種市第 7 地割 34 番地 1 小子内浜漁業協同組合（代表理事組合長 畑川吉松） 岩手県九戸郡洋野町小子内第 3 地割 2 番地 【場所】 岩手県洋野町沿岸の増殖溝及びその周辺 （詳細は別添 2 に記載。）

第 1 号様式

プロジェクト区分 (複数選択可)	■自然基盤 □人工基盤 ■吸収源の新たな創出 ■吸収源の回復、維持、劣化抑制 □水産養殖含む ■水産養殖は含まない																																																
プロジェクト概要	【プロジェクト概要】 別添 2-I に記載。																																																
	【申請対象期間に実施したプロジェクト概要】 別添 2-II に記載。																																																
プロジェクト実施期間	1976 年～現在まで																																																
クレジットの認証申請 対象期間	2021 年 10 月 1 日～2022 年 9 月 30 日 (2021 年度) 2020 年 10 月 1 日～2021 年 9 月 30 日 (2020 年度) 2019 年 10 月 1 日～2020 年 9 月 30 日 (2019 年度) 2018 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日 (2018 年度) 2017 年 10 月 1 日～2018 年 9 月 30 日 (2017 年度)																																																
方法論	① 対象生態系 面積の算定 方法※	【対象とする生態系】 ■海草 ■海藻 □マングローブ □干潟 別添 3-I、II、III に記載。																																															
	② 吸収係数	別添 3-IV に記載。																																															
	③ 吸収量算定 方法	【算定した式】 $\text{吸収量} = \sum_{k=1}^{\text{植生分類数}=2} \text{藻場面積}_k \times \text{吸収係数}_k$ 【算定結果（吸収量）】 2021 年度：831.3 tCO₂/年（詳細は別添 3-V に記載） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>藻場面積</th> <th>確実性評価</th> <th>吸収係数</th> <th>確実性評価</th> <th>吸収量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アマモ・スガモ</td> <td>(8.58 ha × 95.0%)</td> <td>×</td> <td>(1.34 t/ha × 90%)</td> <td>=</td> <td>9.83 t/年</td> </tr> <tr> <td>ワカメ・昆布</td> <td>(102.22 ha × 95.0%)</td> <td>×</td> <td>(9.40 t/ha × 90%)</td> <td>=</td> <td>821.54 t/年</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>831.37 t/年</td> </tr> </tbody> </table> 2017 年度～2020 年度（過去 4 年）：568.8 tCO₂/年 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>藻場面積</th> <th>確実性評価</th> <th>吸収係数</th> <th>確実性評価</th> <th>吸収量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アマモ・スガモ</td> <td>(8.58 ha × 65.0%)</td> <td>×</td> <td>(1.34 t/ha × 90%)</td> <td>=</td> <td>6.72 t/年</td> </tr> <tr> <td>ワカメ・昆布</td> <td>(102.22 ha × 65.0%)</td> <td>×</td> <td>(9.40 t/ha × 90%)</td> <td>=</td> <td>562.10 t/年</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>568.82 t/年</td> </tr> </tbody> </table>		藻場面積	確実性評価	吸収係数	確実性評価	吸収量	アマモ・スガモ	(8.58 ha × 95.0%)	×	(1.34 t/ha × 90%)	=	9.83 t/年	ワカメ・昆布	(102.22 ha × 95.0%)	×	(9.40 t/ha × 90%)	=	821.54 t/年	合計					831.37 t/年		藻場面積	確実性評価	吸収係数	確実性評価	吸収量	アマモ・スガモ	(8.58 ha × 65.0%)	×	(1.34 t/ha × 90%)	=	6.72 t/年	ワカメ・昆布	(102.22 ha × 65.0%)	×	(9.40 t/ha × 90%)	=	562.10 t/年	合計				
	藻場面積	確実性評価	吸収係数	確実性評価	吸収量																																												
アマモ・スガモ	(8.58 ha × 95.0%)	×	(1.34 t/ha × 90%)	=	9.83 t/年																																												
ワカメ・昆布	(102.22 ha × 95.0%)	×	(9.40 t/ha × 90%)	=	821.54 t/年																																												
合計					831.37 t/年																																												
	藻場面積	確実性評価	吸収係数	確実性評価	吸収量																																												
アマモ・スガモ	(8.58 ha × 65.0%)	×	(1.34 t/ha × 90%)	=	6.72 t/年																																												
ワカメ・昆布	(102.22 ha × 65.0%)	×	(9.40 t/ha × 90%)	=	562.10 t/年																																												
合計					568.82 t/年																																												

第 1 号様式

		別添 3-VIに記載の通り、プロジェクト実施者からのヒアリング、Google Earth 画像を用いた繁茂状況の目視比較及びウニの身入り調査データの推移から、藻場面積は 2021 年度と同量と算定した。
④ 確実性の自己判断	1. 対象生態系面積 (1) 2021 年度： <u>95.0%</u> 精度評価を実施し、高い確実性が示唆されたため 95%とした。 (2) 2017 年度～2020 年度（過去 4 年）： <u>65.0%</u> 各年度において現地調査・計測を実施していないことに対し 65%を適用した。 2. 吸収係数 (1) 2021 年度： <u>90.0%</u> 一部のパラメータについて実測値を使用していないことに対し 90%を適用した。 (2) 2017 年度～2020 年度（過去 4 年）： <u>90.0%</u> 各年度において湿重量を計測していないため、面積ベースの計算式に適用される吸収係数とみなし 90%を適用した。	
⑤ 調査時に使用した船舶の情報	・ 台数 計 2 隻 ・ 出力 45kW（1.0 トン） ・ 稼働時間 計約 3 時間 30 分 ・ 燃料の種類 軽油 ・ Co2 排出量 $0.05\text{t-CO}_2 (3.5(\text{h}) \times 45(\text{kW}) \times 0.146(\text{kg/kWh})^{*1} \times 1/1000 \times 2.32(\text{t-CO}_2/\text{kg})^{*2})$ *1 ガイドライン表 2-2 の係数(51kW)を代用 *2 ガイドライン表 2-2 のガソリンを代用	
ベースラインの設定方法・妥当性とその量	増殖溝が整備される以前、岩盤上には、干出に強く海水の循環が無くても繁茂できる小型海藻類が繁茂しており、小規模ながら一定量の CO2 吸収・固定はあったと推定される。しかしながら、本プロジェクトは大型の海草・海藻藻場の創出・保全を目的としたものであり、小型海藻類はブルーカーボン量の算定からも除外しているため、ベースラインについてはゼロ（0 tCO2）と算定した。	

第 1 号様式

クレジット認証対象の
吸収量

3, 106.5 tCO ₂							
2021年度							
	藻場面積	確実性評価	吸収係数	確実性評価	吸収量		
アマモ・スガモ	(8.58 ha ×	95.0%) ×	(1.34 t/ha ×	90%) =	9.83 t/年		
ワカメ・昆布	(102.22 ha ×	95.0%) ×	(9.40 t/ha ×	90%) =	821.54 t/年		
合計						831.37 t/年	
2017年度～2020年度							
	藻場面積	確実性評価	吸収係数	確実性評価	吸収量		
アマモ・スガモ	(8.58 ha ×	65.0%) ×	(1.34 t/ha ×	90%) =	6.72 t/年		
ワカメ・昆布	(102.22 ha ×	65.0%) ×	(9.40 t/ha ×	90%) =	562.10 t/年		
合計						568.82 t/年	
	吸収量	ベースライン	調査時排出量	少数第2位以下切捨て			
2021年度	831.37 t/年	— 0.00 t/年	— 0.05 t	= 831.32 t	=	831.3 t/年	
2020年度	568.82 t/年	— 0.00 t/年	— 0.00 t	= 568.82 t	=	568.8 t/年	
2019年度	568.82 t/年	— 0.00 t/年	— 0.00 t	= 568.82 t	=	568.8 t/年	
2018年度	568.82 t/年	— 0.00 t/年	— 0.00 t	= 568.82 t	=	568.8 t/年	
2017年度	568.82 t/年	— 0.00 t/年	— 0.00 t	= 568.82 t	=	568.8 t/年	
							3,106.5 t/年